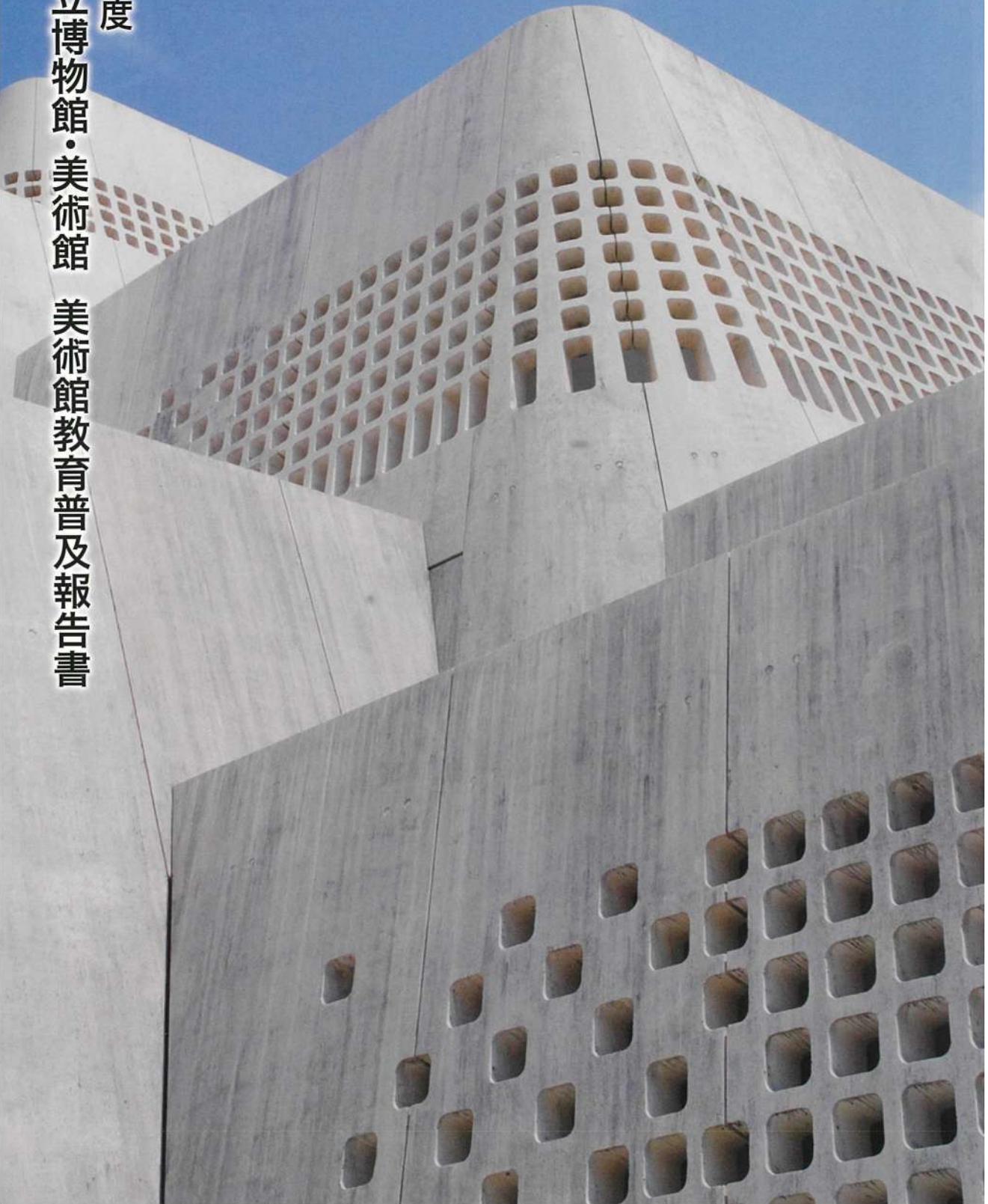


平成24年度

沖縄県立博物館・美術館 美術館教育普及報告書





contents

教育普及報告書 2012-2013

- | | |
|----|--|
| 04 | はじめに |
| 05 | 本年度の取組み |
| 06 | キュレータートーク/学芸員の声 |
| 07 | アーティストトーク/作家の声 |
| 08 | 鑑賞ボランティア活動報告/ボランティアの声 |
| 09 | 教員向け講座/講師の感想 |
| 10 | バス招待事業「美術館へ行こう」/児童の声 |
| 12 | 美術講座 |
| 13 | ワークショップ |
| 14 | 展覧会関連ワークシート作成 |
| 15 | バックヤード |
| 16 | その他催事 |
| 17 | 移動展 |
| 18 | 展覧会関連催事 田中一村展・土門拳の昭和と沖縄 |
| 19 | 展覧会関連催事 旅する仮面 |
| 20 | 展覧会関連催事 山田實展 人と時の往来 |
| 21 | 展覧会関連催事 アジアをつなぐ
-境界を生きる女たち1984-2012 |
| 22 | 実施統計 |
| 26 | さいごに |
| 27 | 奥付 |

はじめに

平成19年11月に開館した沖縄県立博物館・美術館は今年で6年目に入り、入館者数は約245万人に達しました。これも県民の皆様をはじめとする県内外の多くの方々の当館に対する期待の表れだと感じており、また、我々の責任の重さを示しています。

美術館の主な活動内容には5つの柱があります。調査研究・収集・保存・展示公開そして、教育普及があげられます。美術館が単なる施設ではなく、文化や知識の発信地となるために、美術館学芸員の専門的なアプローチとともに、誰もが美術や芸術に対する「美意識」を共有することができる場として教育普及活動があると思います。

本報告書は、平成24年度に実施した企画・常設展関連催事や作品理解を深めるための活動、実技講座やワークシート制作、バックヤードツアーや鑑賞ツアー、移動展などの幅広い活動の内容をまとめたものです。

本報告書が、皆様にとって県立美術館を活用する一助になれば幸いです。

沖縄県立博物館・美術館 館長職務代理 千木良 芳範

【本年度の取組み】

本年度の教育普及事業では、学校との連携を高めるために必要な事業に重点を置きました。(ボランティアの育成、団体対応のためのプログラムの構築、バス招待事業)また、ワークショップの充実も図り、定期の大人・子ども向け実技講座に加え、夏期の子ども向けワークショップでは、たくさんの幼児児童生徒が参加し、創作活動を行いました。

さらには、企画展・コレクション展関連催事のシンポジウムや講演会、アーティストトークやキュレータートークを通して作品理解が深まる場を提供しました。



キュレータートーク

キュレータートークとは、展覧会を企画した担当学芸員が、開催中の展示作家や作品に対する展示コンセプトを語り、そして展覧会を開催するにあたり進めてきた調査・研究内容を語る場でもある。

観覧者にとっては、学芸員の話を聞くことにより「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深める機会となる。また、学芸員にとっては、観覧者に展示コンセプトが伝わったか、作品のテーマやメッセージなどを観覧者がどのように受け取るかを知る重要な機会となる。



学芸員の声

ある展示会場で「うれーぬーかちえーが、ぬーんわからん」(これは何を描いたのか全く解らない)と老婆がある絵を見て言いました。「絵は解るものでは無く、感じるものだよ」とある作家はその老母に伝えたそうです。

自由にイメージを膨らませて鑑賞することは大切です。しかし、その作家が何を目指し、どのような時代背景で描いたのか。他の作家との関係など、作品の裏側を知ることによって鑑賞が深まる方法もあります。

キュレータートークがご来場された方々にとって、作品の内奥に触れる機会となり、より楽しむことに繋がれば幸いです。(仲里安広)



アーティスト(ギャラリー)トーク

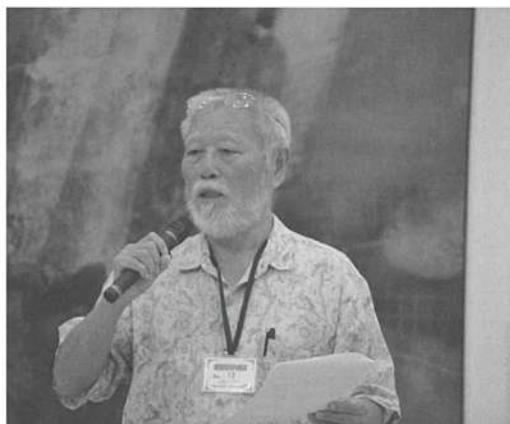
アーティストトークやギャラリートークは、作家自身から作品や制作に関する話を直接聞いたり、作家と縁のある方から作家の人柄や思想、人生について間接的に聞く機会である。

この時間では、作品の制作過程における制作技法や制作スタイルの変遷など、作品の背景にある作家の様々な思いや葛藤などを本人の語りで聞くことができる。今まで、自分にとって遠い存在であった作家や作品との距離が急速に縮むことになる。それは、作品や作家に対する理解が深まる。

作家の声

芸術活動は自己表現でありながら又自問自答を経た自己との出会いでもある。その自己は産声をあげた時にすでに己(おのれ)一人では存在し得ない社会的存在の宿命にある。芸術は人間社会の産物であり、自然環境、時代背景の時空外にはあり得ないだけに価値存在は大きい。

芸術は伝達手段ではない。虚像であると同時にその存在は曖昧、非常識にある。我々はその非常識の問を享受しながら曖昧さの狭間から求心的魅力、人生への自問に魅せられていく。創作に携わる者にとって偶然との出会いはその時の自己資質との瞬時の出会いであり一歩深化した自身への掲示として感動的である。(喜久村徳男)



「沖縄美術の流れ－ 沖縄の美術がとらえた光と影」

講師：喜久村徳男氏（美術家）

日時：8月18日(土)15:00～16:00 場所：コレクションギャラリー3

ボランティア活動報告

今年度は、ガイド、ワークショップ、資料整理の3つのボランティアを募集し様々な活動におけるサポートをいただいた。ガイドは、学校団体対応を中心に対話型鑑賞法による鑑賞授業のサポート、ワークショップは、材料の準備や参加者の安全面におけるサポート、資料整理は、新聞スクラップや美術書籍の整理など、各々が得意分野を生かし、美術館におけるボランティア活動を展開した。

古謝 真理子 (ガイドボランティア)

「充実したひとときを有難う。」— 学校団体で来館し、出会えた子供達と共に作品を鑑賞して、語り合う時を終えた時、毎回思う事です。限られた短い時間の中で(作品の知識や情報にとらわれることなく)ピュアな心のまま作品にむき合う姿、いつしか柔らかな気持ちになり、みずから内にある思いをひきだそうとする瞬間の真剣なまなざし。自分のことばにのせて、きく人に伝えようと工夫するけな気な様子。ぴったりの表現がみつかり発言できた時の喜びの表情。友達と同じ感想でも、違う考えでも、お互いによりそい受け入れ、認め合い、尊重して、更に対話に広がりや深みを増していく時のワクワクドキドキ感を共に味わう事ができ幸せに思います。



萬造 宗時 (資料整理ボランティア)

私は沖縄へ住むにあたって、いくつかの目標を持っていました。その一つが美術館でのボランティア活動です。タイミング良く、私の望んでいた、資料整理のお手伝いが出来ました。とは言つても初めての経験のため戸惑いもいくつかありました。最初は地元の二社の新聞紙上から、沖



縄県立美術館の記事を切抜く作業から始めましたが、関連する記事の内容に夢中になり手が止まってしまい、頭の切替えに苦労しました。美術館の蔵書の整理では、図書名、著者、出版社、サイズ等を表に記録するのですが、好きな作家や作品の図書等では解説文をじっくり見て、作業が進まない時も多々あり、周りの方に気が引けました。しかし、そんな作業の合間の休憩では、このボランティアに参加している人達の美術に関する熱意や知識、美術館巡りの行動力に驚いています。又、このボランティアに参加している方が、子育てを終わった方や定年後の方以外に、子育て中や仕事を持ちながらの参加に毎回敬服をしていました。



美術館活用についての講演会

学校連携に力を入れている埼玉県立近代美術館のお話と当館を利用いただいた県内の学校教諭による事例報告、長年幼児教育に携わっている講師を迎える、美術館の今後の活用について意見交換を行った。

日 時：3月1日(金)14:00～17:00

場 所：美術館講座室

14:00～14:05 はじめのあいさつ

14:05～14:20(15分) 「美術館普及活動の概要」 大城直也(当館教育普及担当 学芸員)

14:20～14:55(35分) 「学校との連携について」 山水 明氏(埼玉県立近代美術館 学芸員)

14:55～15:25(30分) 事例報告

「学校団体鑑賞プログラムを活用して」 古波津 崇氏(南城市立船越小学校 教諭)

「アートカードを活用した鑑賞授業」 上場満美子氏(うるま市立高江洲小学校 教諭)

15:25～15:35(10分) 休憩・会場設営

15:35～16:45(70分) パネルディスカッション

(山水 明氏、西村貞雄氏、古波津崇氏、上場満美子氏)

○幼児・児童・生徒と美術館

○鑑賞教育の有効性

○美術館と学校の連携について

○その他

○質疑応答



学校との連携というテーマで、当館の学校連携事業について紹介させていただきました。少しでも皆様のお役に立てたなら幸いです。

沖縄の先生方の実践発表を聞かせていただきました。子どもたちの成長に視点を当てた具体的な事例の報告があり素晴らしいと感じました。今、国工美術の影が学校教育の中で薄くなりつつあります。これからますます、教育の効果を具体的に示す必要に迫られてくるでしょう。埼玉県でも、美術館と学校との連携で行われた教育が、子どもたちのその後にどのような効果を上げたのかを示していく研究を進めようと思います。

沖縄の先生方とお話をできたこと、沖縄の素晴らしい作品を鑑賞できること、沖縄の自然に触れることができたこと。ひとつひとつが刺激的でした。重ねて御礼申し上げます。

埼玉県立近代美術館 教育広報 山水 明

バス招待事業「美術館へ行こう」

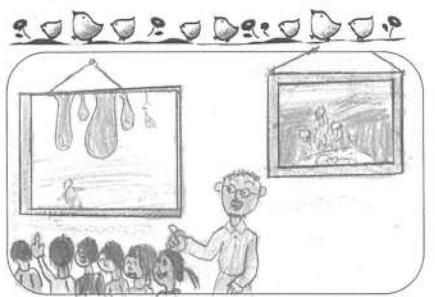
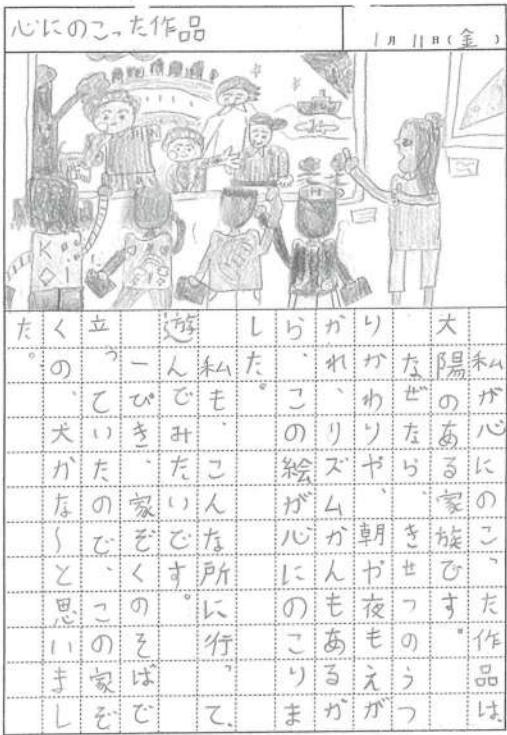


今年度から、5ヵ年計画で「美術館へ行こう」と題した美術館バス招待事業が始まった。今年度は国頭地区の小中学校及び高等学校に対して公募を行った。そのうち、12月から1月までの2ヶ月に5校の小中学校が美術館に足を運んだ。実際に、ガイドボランティアの皆さんのがんばりで美術作品を鑑賞する中で多くの感動体験が生まれた。児童生徒にとってこの体験が美術鑑賞のスタートとなり、美術館にとっては今後の美術館活用及び次年度の事業計画に大きな期待をもたらす結果となった。



回	月日	曜日	学校名	学年
1	12月11日	火	名護市立真喜屋小学校	5年生
2	12月18日	火	名護市立稻田小学校	1~3年生
3	1月10日	木	名護市立東江小学校	3年生
4	1月11日	金	今帰仁村立天底小学校	4~5年生
5	1月30日	木	本部村立伊豆味小学校	1~6年生





1月18日は、びじゅつかん、
はくばつかんのかんしょを教
えて下さりありがとうございました。
本ものの、絵やむかしの絵を見て
もうって、かんどうしました。
絵画のふうけいはとまっているけど、
その先のことをそつぞうするとおもしろ
いことかうかんだりするのでしたしがたです。



です。	ま	た	い	き	た	は	じ	め	て	見	た	え	や	ひ	し	は	く	は	り	き	の	う	ち	き	か	わ	け		
り	た	い	た	い	た	う	ぱ	い	で	わ	く	わ	く	は	じ	め	て	見	た	え	や	は	じ	め	て	見	た	え	や



昨年度は美術の全体的な流れを展開した美術講座が好評であったが、今年度は、内容を「絵画の見方」に絞り開催した。参加者には、学生や主婦、美術関係者など、美術に関心のある多くの方が聴講した。講師は、絵画 稲嶺成祚氏・彫刻 西村貞雄氏をお招きし、それぞれの分野から代表作品を例に上げながら、西洋・日本・沖縄の絵画の見方に関するお話をいただいた。

第一回

「絵画の見方① 名画に見る構図のいろいろ」

稻嶺成祚氏(画家／琉球大学名誉教授)

西洋・日本美術史における代表作品を例に、構図の特徴や時代背景について解説した。

第二回

「絵画の見方② 画家の視点からみた絵画史」

稻嶺成祚氏(画家／琉球大学名誉教授)

数名の画家を例に、制作する側の意図する視点はどのような点であるかを解説した。

第三回

「絵画の見方③ 絵画における平面と立体」

西村貞雄氏(彫刻家／琉球大学名誉教授)

西洋画・日本画の表現方法について時代背景や美術の流れを通して解説した。

第四回

「絵画の見方④ 東洋と西洋の絵画表現について」

西村貞雄氏(彫刻家／琉球大学名誉教授)

時代別に東洋と西洋における代表作品からわかる色や技法の違いを解説した。

ワークショップ



今年度は、昨年より好評の「大人の実技講座」シリーズを始め、大人向け、子ども向けプログラムを充実させ、子どもから大人まで幅広い世代で楽しめる内容を心掛けた。また、夏休みには美術館を舞台に子どもたちが主役となって取り組むワークショップを開催した。各講座には、作家を講師として迎え、参加者と対話を重ねながら作品制作をおこなった。そして、3月には今年度のワークショップの成果を発表する展覧会として、「修了作品展」を開催。今年も沖縄県立博物館・美術館から素晴らしい作品がたくさん生まれ、参加者それぞれが美術を身近に感じていただけたと思う。

◇ 講座修了作品展 ◇ 講座受講生による作品展

実施日：3月12日(火)～17日(日)
場 所：県民ギャラリー3
来場者：約300名



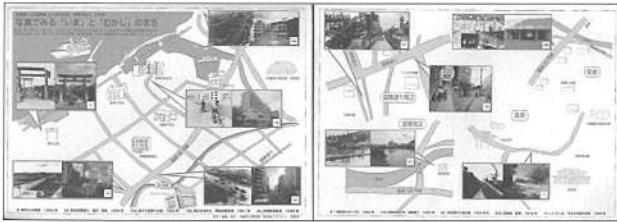
展覧会関連ワークシート作成

作品鑑賞の一助になることを心掛け作成した。



田中一村展～琉球弧で開花した美の世界～

子ども向けに作成。絵に登場するモチーフを取り上げ、絵の中に入り込むような問いかけを工夫した。一村という人物像、また日本画という技法についても紹介した。



山田 實 展～人と時の往来～

山田が撮った風景が現在どうなっているか、地図上に写真を並べて配置。子どもから大人まですべての年代の来場者に配布し、展覧会を見終わった後も活用できることを目的とした。



アジアをつなぐ—境界を生きる女たち1984-2012

子ども向けに作成。登場キャラクターの会話を通して、作品の印象から想像を促すような設問を記載。絵について自由に鑑賞してもらうことで作品との距離を縮められることを目指した。



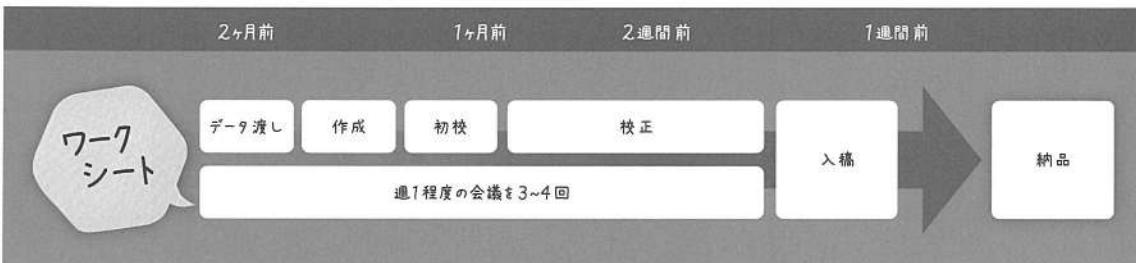
土門拳の昭和と沖縄

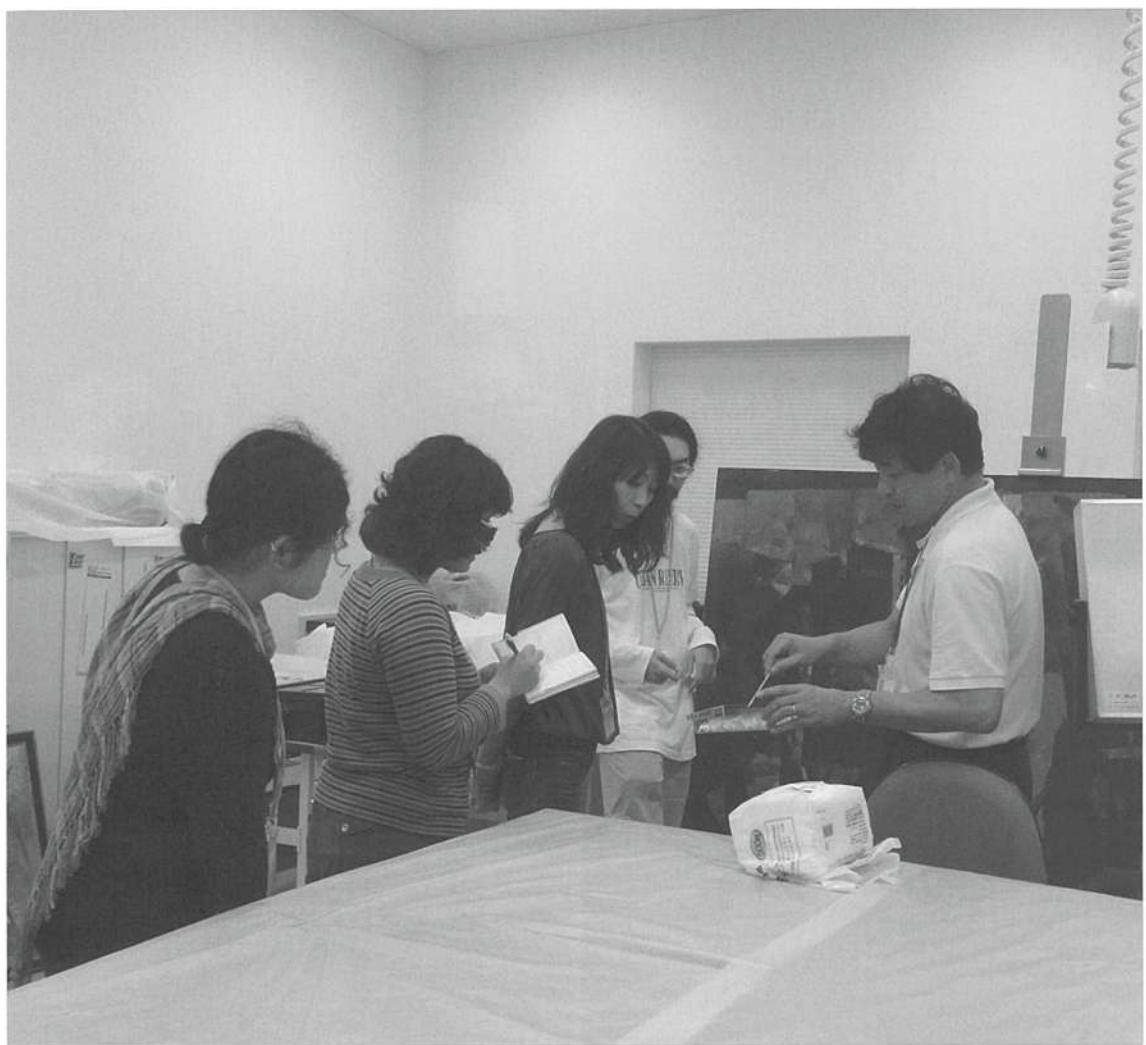
大人向けに作成。各章から作品を選び、作品の見方と技法やエピソードを交えた補足解説を記載。



沖縄美術がとらえた光と影

抽象、具象、立体の作品を選び、紹介した。問い合わせと、補足の文章で作品や沖縄に対する理解に繋がるよう考えた。





普段は見ることのできない美術館の裏側を毎月1回案内するツアー。本催事も今年で3年目を迎え、多くの参加者に美術館の役割や学芸員の仕事などを理解していただいた。

参加者は、県内のみならず観光客も参加し、沖縄という特異な地域における保存管理の特徴について紹介することができた。学芸員が案内することで、展示設営におけるエピソードなど普段聞くことのできない話も交えることができ、美術館に親しみを持っていただけた。



美術解剖学という学問がある。絵画や彫刻などで人体を描くために、人間の体について解剖学的に研究する学問で、古代ギリシア、イタリア・ルネサンスの時代にさかんに研究されたが、日本では明治時代に東京美術学校（現在の東京藝術大学）で始められた。

この科学と芸術にまたがる美術解剖学の魅力について、布施英利氏が解剖学の歴史、身体及び筋肉の動き、解剖学的視点による絵画分析によって、これまでの観ていた絵画が実際は脳による錯覚を無意識的に認知していたという事実は、多くの公聴者の常識を揺さぶることとなった。

美術館コレクションギャラリー2

「わたしが私であるために—共振の美学」関連催事

「あなたは美術解剖学を知っていますか？—科学と芸術をつなぐもの」

講師：布施英利氏（東京藝術大学准教授） 日時：9月21日（金）19:00～20:30

場所：博物館講座室



毎年恒例の移動展、第5回目の舞台は粟国島で開催。地元の協力により広報誌における告知ができ、島民の約60%にご来場いただくことができた。会場では、何度も足を運ぶお年寄りや子どもの姿が見られ、それぞれに職員とコミュニケーションをとる様子も伺えた。また、島内の小中学生が会場に訪れ、学芸員によるキュレータートークや鑑賞ツアーを体験し、熱心に耳を傾ける姿も伺えた。教育普及催事や学校団体の受け入れを積極的に行うことができた。

移動展 in 粟国島

会期: 11月16日(金)~17日(土)

開催時間: 9:00~19:00(16日は10:00~19:00)

開催地: 沖縄県粟国村(粟国村離島振興総合センター、島あしひ館)

○総入館者数 470人(博物館275人、美術館195人)

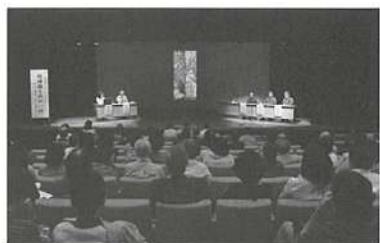


田中一村展

奄美の自然を描いた画家、田中一村(1908~1977)の幼少期から奄美時代までの作品群を展示。豊かな自然風土を描いた一村の世界を紹介した。関連催事として行ったギャラリートークでは作品に描かれた南の島に生息する動植物について解説、シンポジウムでは、奄美・沖縄の琉球弧においてシマを視ることと、視されることの意味、そして田中一村作品の持つ今後の可能性について論じた。

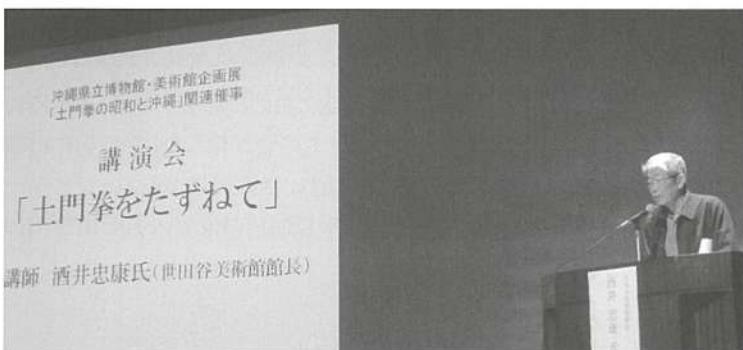
□ギャラリートーク「一村の絵を見る琉球弧の自然」

【講 師】比嘉正一氏(元東南植物楽園学芸員、沖縄昆虫同好会会長)
【日 時】4月8日(日)2回実施13:00~13:40／15:00~15:40
【会 場】企画ギャラリー内 【参加者】1回目:45人／2回目:34人



□シンポジウム「琉球弧と田中一村」

第一部 基調講演「奄美の自然感と田中一村」
【講 師】中山清美氏(奄美市立奄美博物館館長)
第二部 パネルディスカッション
コーディネーター:高良勉氏(詩人)パネリスト:島尾伸三氏(写真家)、翁長直樹氏(美術評論家)、中山清美氏
【日 時】4月21日(土)14:00~17:00
【会 場】博物館・美術館 講堂(先着200名／聴講無料) 【参加者】150人



□講演会「土門拳をたずねて」

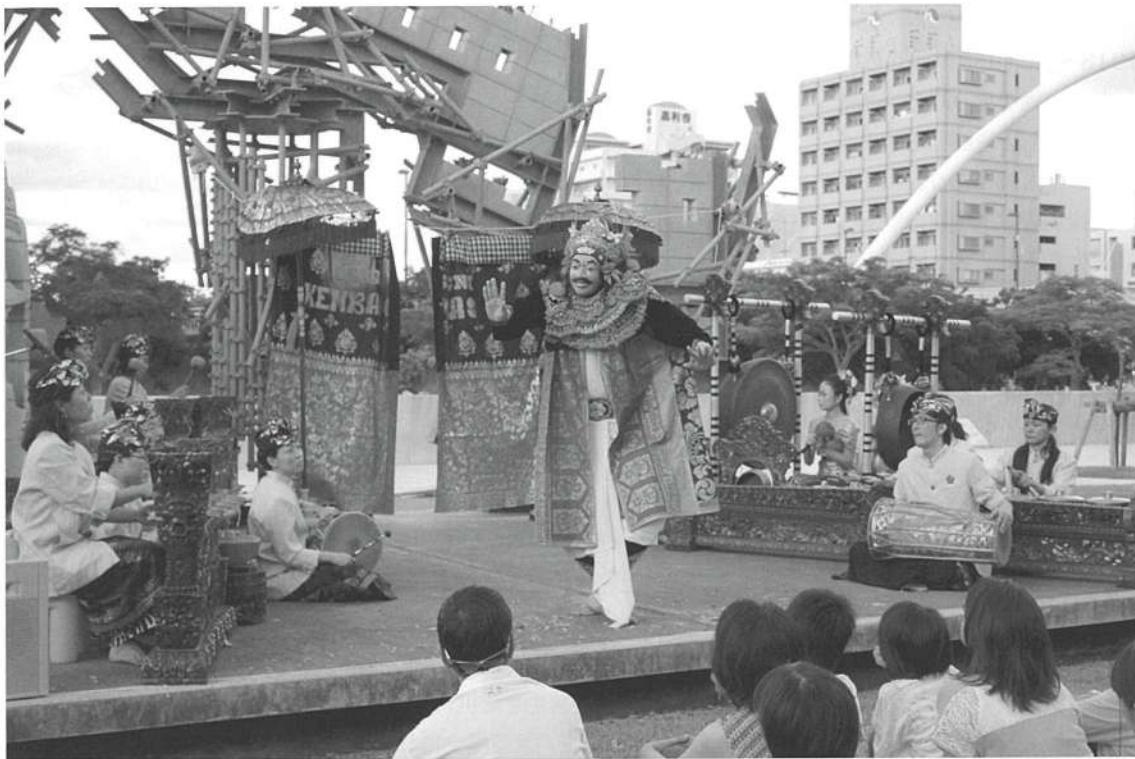
【講 師】酒井忠康氏(世田谷美術館館長)
【日 時】6月17日(日)14:00~16:00
【場 所】博物館・美術館 講堂(先着200名／聴講無料) 【参加者】61人

□ギャラリートーク

【講 師】小橋川共男氏(写真家)
【日 時】5月20日(日)15:00~16:00
【会 場】企画ギャラリー内 【参加者】34人

土門拳の昭和と沖縄

写真のリアリズムを提倡し日本を代表する写真家、土門拳(1909~1990)の業績を辿る展覧会として主要作品約300点を展示。加えて、日本民藝協会の調査団として来沖した際の写真も展示し、沖縄との関係にも注目した。講演会では土門の風貌シリーズを中心にお話いただき、ギャラリートークでは日本リアリズム写真集団に所属している小橋川共男氏による写真家の眼からみた土門作品についてお話をいただいた。



世界各国にみられる仮面文化。その神秘性や造形性から豊かな表現力を楽しむ展覧会として、日本をはじめアジア、オセアニア、アフリカなど各国の面を展示。事前に県内の児童生徒にデザイン画募集を行い、個性溢れるデザインが寄せられた。選考の上、審査員の作家の手により立体化された5点と全てのデザイン画を会場の一角に展示了。公演ではガムランの演奏に合わせ、仮面を使った踊りを披露いただいた。舞踏からインドネシアという国の文化背景を知る機会となった。また講演会では世界の仮面、ギャラリートークでは、ミルク神をはじめとした沖縄の仮面についてお話をいただいた。



□「仮面舞踊」

【主 演】大眉鉄平 氏(バリ舞踊家)、沖縄県立芸術大学バリガムランサークル「Kembangmas(ケンバンマス)」
【日 時】8月19日(日)18:00から1時間程度(開場17:30)
【会 場】博物館・美術館 美術館屋外展示場 【入場料】無料 【参加者】160人

□講演会「世界の仮面、仮面の世界」

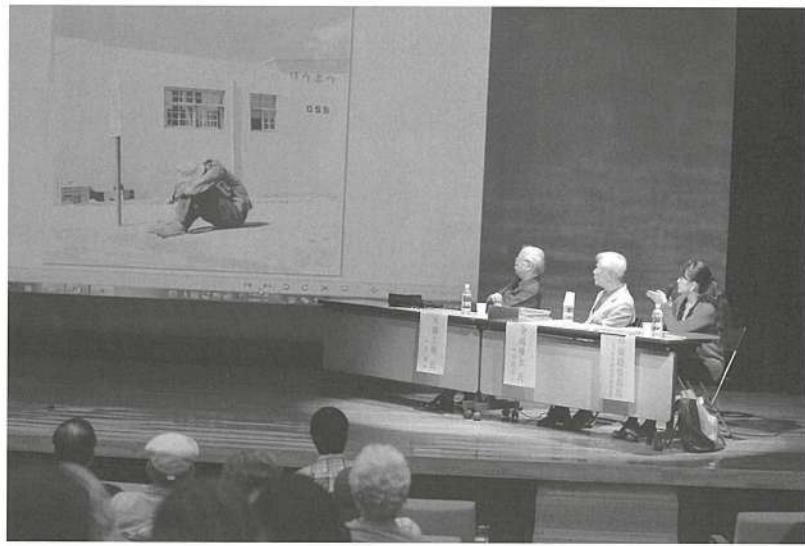
【講 師】吉田 憲司 氏(国立民族学博物館 教授) 【日 時】8月12日(日)14:00~16:00
【会 場】博物館・美術館 講堂(先着200名／聴講無料) 【参加者】70人

□ギャラリートーク

【講 師】須藤 義人 氏(沖縄大学 講師) 【日 時】7月21日(土)15:00~16:00
【会 場】企画ギャラリー内 【参加者】22人

山田實(やまだ・みのる、1918~)は1950年代から現在まで沖縄を撮り続け、沖縄の人々の生活や風物を数多く記録した人物であり、沖縄の戦後復興期に沖縄写真界の草創を支えた一人。山田は戦前の那覇で育ち、太平洋戦争では満州で召集されソ連軍と交戦、敗戦後2年間飢えと酷寒のシベリア抑留を生き抜く、過酷な半生を過ごしました。その深い眼差しが捉えた沖縄の記録304点を、山田が

所蔵する古い資料と共に紹介し、山田實の人物像と写真の魅力に触れる企画展を開催しました。関連シンポジウムでは、山田と同じく戦後の沖縄を知り、山田と交流のある大城立裕(作家)と金城棟永(写真家)、さらに沖縄の映像や写真を研究する仲里効(批評家)や仲嶺絵里奈(写真史研究所研究員)をパネリストに招き、作品の背後にある山田の人物像と時代背景を探りました。戦前戦後を生きた世代が少なくなった今、あらためて戦争と戦後が何であったかを語り継ぎ、山田の写真を通して「沖縄」を考える機会になりました。(大城仁美)



□シンポジウム

「山田實 そのまなざしの淵源」

【日 時】10月6日(土)14:00~17:00

【場 所】博物館・美術館 講堂(先着200名／聴講無料)

【参加者】102人

<パネリスト>

大城立裕 氏(作家) 金城棟永 氏(写真家)

仲嶺絵里奈 氏(写真史研究所研究員) 仲里 効 氏(批評家)

<コーディネーター> 大城仁美(当館主任学芸員)



□ギャラリートーク

【講 師】山田 實 氏(写真家) 【日 時】9月22日(土)15:00~16:00

【場 所】企画ギャラリー内 【参加者】105人

□キュレータートーク

【講 師】大城仁美(当館主任学芸員) 【日 時】10月13日(土)15:00~16:00

【場 所】企画ギャラリー内 【参加者】18人

□まちあるき

【講 師】三嶋啓二 氏(沖縄ある記) 【日 時】10月20日(土)13:30~15:30

【場 所】那覇市内 【参加者】17人



沖縄の女性アーティストのギャラリートークリーでは、戦後草創期から現代までの沖縄女性作家の表現について発表を通して、展示作品についての理解を深めていただく機会となりました。アーティストとして社会の中で生きる中で、女性としての視点、立ち位置、主張等をどう作品に反映していくのか、制作に対する根幹に触れることができました。

□「アジアをつなぐ—境界で生きる女性たち1984-2012」関連ギャラリートークリー

【日 時】12月15日(土)16:00～17:00

【会 場】博物館・美術館 博物館展示室内

【内 容】沖縄の女性アーティストによるギャラリートークリー

【講 師】宮良瑛子氏、中島イソ子氏、仲座包子氏、山川さやか氏、石垣克子氏、桃原須賀子氏、花城郁子氏

□キュレータートーク

【講 師】豊見山愛(当館主任学芸員) 【日 時】12月22日(土)15:00～16:00

【場 所】企画ギャラリー内 【参加者】15人

□はじちワークショップ

【講 師】トーク:山城博明氏(写真家)

ワーク:赤嶺善雄氏(やちむにすと、ちゅくいむじゅくいすと)、赤嶺ゆかり氏、親川志奈子氏(オキスタ)

【日 時】12月1日(土)14:00～16:00

【場 所】博物館・美術館 実習室 【参加者】一般24人、子ども10人

1.キュレーター・トーク(展示会担当学芸員による作品・作家解説 15:00~)

回	月日	曜	展覧会名	担当	参加者
1	4月 22日	土	大和コレクションIV 「森山大道 何処かへの旅」	新里	22人
2	5月 19日	土	コレクションギャラリー1・2・3展 (博物館の日)	新里／仲里	30人
3	6月 2日	土	大和コレクションV 「新しい写真の展開」	新里	9人
4	8月 4日	土	「沖縄の美術がとらえた光と影」	仲里	8人
5	9月 22日	土	企画展「山田實展 人と時の往来」	大城	18人
6	10月 6日	土	「私が“わたし”であるために共振の美学」	豊見山	6人
7	11月 3日	土	豊栄コレクション「現代アジア作家 孫本長展」	直也	8人
8	12月 1日	土	「アジアをつなぐ—境界を生きる女たち 1984-2012」	豊見山	15人
9	1月 12日	土	「沖縄の美術がとらえた光と影」	仲里	8人
10	2月 2日	土	「安谷屋正義エスキース展—ある風景—」	翁長	8人
11	3月 2日	土	大和コレクションVI 「世界のてがかり」	大城	5人

2.アーティスト(ギャラリー)・トーク(展示作品制作又は関係者による作品解説 15:00~)

回	月日	曜	展覧会名	講師	参加者
1	6月 23日	土	大和コレクションV 「新しい写真の展開」	宮本隆司	52人
2	8月 18日	土	「沖縄の美術がとらえた光と影」	喜久村徳男	36人
3	9月 15日	土	「山田實展 人と時の往来」	山田 實	105人
4	9月 21日	金	「私が“わたし”であるために共振の美学」	布施英利	90人
5	11月 10日	土	豊栄コレクション「現代アジア作家 孫本長展」	安永幸一	14人
6	12月 15日	土	「アジアをつなぐ—境界を生きる女たち 1984-2012」	中島イソほか	70人
7	2月 16日	土	「安谷屋正義エスキース展—ある風景—」	大浜英治	16人
8	3月 16日	土	大和コレクションVI 「世界のてがかり」	竹川宣彰	25人

3.鑑賞ボランティアツアー(ガイドボランティアによる一般観覧者を対象とした鑑賞会 16:00~)

回	月日	曜	展覧会名	参加者
1	6月 16日	土	大和コレクションV 「新しい写真の展開」	4人
2	10月 27日	土	「私が“わたし”であるために共振の美学」	4人
3	11月 24日	土	豊栄コレクション「現代アジア作家展 孫本長展」	8人
4	12月 22日	土	「沖縄の美術がとらえた光と影」	11人
5	2月 23日	土	「安谷屋正義エスキース展—ある風景—」	3人
6	3月 23日	土	大和コレクションVI 「世界のてがかり」	4人

4.ボランティア養成講座(コレクション展に関する内容と鑑賞法の講義 10:00~)

回	月日	曜	講義内容	参加者
1	6月 7日	木	開校式及び説明会	31人
2	6月 7日	木	各班活動説明会	31人
3	6月 21日	木	コレクションギャラリー1・2展示説明会	35人
4	6月 21日	木	コレクションギャラリー3展示説明会	35人
5	7月 12日	木	鑑賞ツアーアイテムについて	31人
6	7月 12日	木	アートカードの使い方(実技)	31人
7	7月 26日	木	アートカードの使い方(実践)	37人
8	7月 26日	木	バックヤードツアーアイテム	37人
9	9月 6日	木	ボランティア証交付式	27人

※対象:登録ボランティア員

5.美術講座(コレクション展に関する美術史及び絵画の見方等の講座 18:30~)

回	月日	曜	講義内容	講師	参加者
1	6月15日	金	「絵画の見方①名画に見る構図のいろいろ」	稲嶺成祚	48人
2	7月13日	金	「絵画の見方②画家の視点から見た絵画史」	稲嶺成祚	60人
3	9月14日	金	「絵画の見方③絵画における平面と立体」	西村貞雄	38人
4	10月12日	金	「絵画の見方④東洋と西洋の絵画表現について」	西村貞雄	48人

※対象:一般及び登録ボランティア員

6.ワークショップ

(1)子どもワークショップ2012①「だだっこになろう」 26人参加

- ① 日 時:平成24年5月12日(土)、6月10日(日)、7月8日(日) 10:30 ~12:00
- ② 内 容:子どもの発達段階に応じた造形活動
- ③ 講 師:砂川恵光(沖縄旺玄会)
- ④ 対 象:5月12日(未就学児童)、6月10日(小学校高学年)、7月8日(小学校低学年)
- ⑤ 場 所:子どもアトリエ

(2)大人実技講座2012①「モノクロの写真の世界」 11人参加

- ① 日 時:平成24年5月19・26日(土)、6月9・16日(土) 10:30~12:00
- ② 内 容:モノクロ写真の実技指導(印画紙プリント有り)
- ③ 講 師:國吉和夫(写真家)
- ④ 対 象:一般
- ⑤ 場 所:県民アトリエ、屋外撮影(牧志公設市場)

(3)美術館夏休み子どもワークショップ2012①「写生会」 24人参加

- ① 日 時:平成24年8月18日(土) 9:30~15:00
- ② 内 容:絵の先生と一緒に風景画を描く
- ③ 講 師:沖縄美術家協会(屋良朝春、大城譲、玉那霸英人、當間よしの)
- ④ 対 象:小3~小6(親子同伴)
- ⑤ 会 場:県立博物館・美術館周辺

(4)美術館夏休み子どもワークショップ2012②「中庭が水族館」 89人参加

- ① 日 時:平成24年8月19日(日) 9:30~12:00
- ② 内 容:ガラスに魚などを彩色して水族館にする
- ③ 講 師:大城直也(当館学芸員)
- ④ 対 象:子ども~大人
- ⑤ 会 場:美術館中庭

(5)美術館夏休み子どもワークショップ2012③「巨大子ども基地づくり」 39人参加

- ① 日 時:平成24年8月19日(日) 11:00~15:30
- ② 内 容:身近なものを利用して巨大な基地作りをする
- ③ 講 師:スタジオ解放区
- ④ 対 象:小4~小6
- ⑤ 会 場:子どもアトリエ、玄関周辺

(6)美術館夏休み子どもワークショップ2012④「おいしい美術」 11組参加

- ① 日 時:平成24年8月19日(日) 9:30~12:00
- ② 内 容:お菓子などをアートに仕上げる
- ③ 講 師:ソベラボ
- ④ 対 象:幼稚園~小2(親子同伴)
- ⑤ 会 場:博物館実習室

6.ワークショップ

(7)美術館夏休み子どもワークショップ2012⑤「キッズカメラマン」 16組参加

- ① 日 時:平成24年8月19日(日) 15:00~17:00
- ② 内 容:カメラ実技指導と印刷
- ③ 講 師:仲本賢(県立芸術大学教授)
- ④ 対 象:小1~小6
- ⑤ 会 場:エントランス

(8)美術館夏休み子どもワークショップ2012⑥「チェスをつくろう」 16組参加

- ① 日 時:平成24年8月19日(日) 13:30~15:30
- ② 内 容:身近なものでチェスをつくりゲームをした
- ③ 講 師:小浜由子(県立芸術大学学生)
- ④ 対 象:小4~小6
- ⑤ 会 場:エントランス

(9)美術館夏休み子どもワークショップ2012⑦「イスさん美術館にいく」 18人参加

- ① 日 時:平成24年8月19日(日) 13:30~15:30
- ② 内 容:イスをテーマに動画を撮影し公開した
- ③ 講 師:真喜屋力(映画監督)
- ④ 対 象:小4~中3
- ⑤ 会 場:館内(撮影)、県民アトリエ(編集)

(10)子どもの実技講座「素材にふれよう」 13人参加

- ① 日 時:平成24年10月~12月(土)10:00~12:00
- ② 内 容:素材の特徴を生かした作品制作
- ③ 講 師:山田義力(陶芸家)、比嘉良徳、児玉美咲(アーティスト)
- ④ 対 象:未就学児~小学校(低学年・中学年・高学年)
- ⑤ 会 場:県民・子どもアトリエ

(11)大人の実技講座「アクションペインティングの世界」 12人参加

- ① 日 時:平成24年11月~12月 毎週土曜日 10:30~12:00(全4回)
- ② 内 容:アクションペインティング入門
- ③ 講 師:桃原須賀子(アーティスト)
- ④ 対 象:一般
- ⑤ 会 場:県民・子どもアトリエ

7.鑑賞学習支援

(1)児童生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品を使って鑑賞学習指導を行う 271人参加

- ① 対 象:県内小中学校／学校単位で5校程度
- ② 方 法:公募により学校を決定／10月から公募開始
- ③ 場 所:コレクションギャラリー
- ④ 内 容:鑑賞ボランティアによる鑑賞学習支援

回	月日	曜	学校名	内容	参加者
1	12月11日	火	名護市立真喜屋小学校(5年)	コレクション展見学	37人
2	12月18日	火	名護市立稻田小学校(1~3年)	コレクション展見学	55人
3	1月10日	木	名護市立東江小学校(3年)	コレクション展見学	90人
4	1月11日	金	今帰仁村立天底小学校(4~5年)	コレクション展見学	58人
5	1月31日	木	本部村立伊豆味小学校(1~6年)	コレクション展見学	31人

8.教員向け講座 18人参加

- ① 日 時:平成25年3月1日(金)14:00 ~17:00
 ② 会 場:博物館・美術館 美術館講座室
 ③ 内 容:美術館活用について
 ④ 講 師:西村貞雄、山水明、古波津崇、上場満美子

9.展覧会関連講演会・シンポジウム**(1)「山田實展」関連シンポジウム** 102人参加

- ① 日 時:平成24年10月6日(土)14:00 ~17:00
 ② 会 場:博物館・美術館 講堂
 ③ 内 容:山田實作品の背後にある山田の人物像と時代背景の考察

(2)「アジアをつなぐー境界で生きる女性たち1984-2012」関連シンポジウム 90人参加

- ① 日 時:平成24年12月16日(日) 9:00 ~17:00
 ② 会 場:博物館・美術館 講堂
 ③ 内 容:アジアにおける女性アーティストの研究報告会

10.美術館パックヤードツアー

- (1) 実 施:毎月1回 土曜日 14:00~
 (2) 内 容:普段観ることのできない美術館の裏側を学芸員が案内する
 (3) 定 員:12名

回	月日	参加人数
1	4月 28日	13人
2	5月 9日	7人
3	5月 26日	11人
4	6月 16日	7人
5	7月 28日	10人
6	8月 25日	7人
7	9月 22日	1人

回	月日	参加人数
8	10月 27日	2人
9	11月 17日	3人
10	12月 22日	3人
11	1月 19日	5人
12	2月 23日	5人
13	3月 23日	8人

11.「移動展 in 栗国島」 195人参加

- (1) 会 期:平成24年11月16日(金)・17日(土)(2日間) 9:00~17:00(16日は10:00~19:00)
 (2) 開催地:栗国村離島振興総合センター・島あしひ館(ビジターセンター、体験工房)
 (3) 内 容:絵画・映像作品の展示

12.学校団体見学対応 278人参加

回	月日	曜	学校名	内容	見学者
1	7月 18日	水	沖縄県立浦添工業高等学校	コレクション展見学 パックヤード見学	80人
2	9月 14日	金	同志社大学	コレクション展見学	27人
3	9月 21日	金	南城市立馬天小学校	コレクション展見学	55人
4	10月 26日	金	うるま市立あげな小学校	コレクション展見学	50人
5	11月 7日	水	南城市立船越小学校	コレクション展見学	40人
6	12月 14日	金	大宜味村立大宜味小学校	コレクション展見学	14人
7	12月 23日	土	沖縄大学	アジアをつなぐ展見学	12人

さいごに

教育普及活動は、美術館という場所を通して、人と人、人と作品、人と他の何かを結びつける活動です。その中で、新しい刺激に触発され、自分自身を見つめたり、語ったり、見直したりすることで新しい自分を発見する機会になり得たなら幸いです。

今年度も、シンポジウムや講演会、実技講座やトークイベントに関わっていただいたアーティストの方々、展覧会関係者、そして美術館を支えているボランティアの皆様方、たくさんの力添えのおかげで、このような報告書にまとめることができました。この場を借りて感謝申し上げます。

平成24年度
沖縄県立博物館・美術館
美術館教育普及報告書

2013年3月29日

————発行————

沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
TEL.098-841-8200(代表)

————教育普及担当————

大城直也(沖縄県立博物館・美術館)
仲里安広(沖縄県立博物館・美術館)
町田恵美(文化の杜共同企業体)
大瀬萌子(文化の杜共同企業体)

